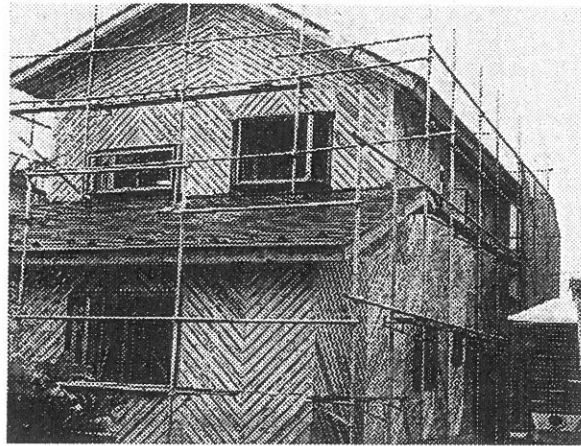


木造家屋は耐震度点検を

注目集める「TIP構法」



TIP構法で斜めに下地板を張った建築中の家

阪神大震災で倒壊した家屋には木造の民家が多く、神戸市の長田、兵庫、須磨の三区に多かった。敗戦後下敷きになったケースが目立った。古い木造に住む人はいま一度、耐震度を点検する必要があるようだ。

大震災で倒壊した家屋は神戸市の長田、兵庫、須磨の三区に多かった。敗戦後下敷きにならなくなった木造住宅が多かったからだといわれる。これと対照的なのが昨年の「三陸はるか沖地

震」。震度6の青森県八戸市では七千三十四戸の住宅が被害に遭ったが、全壊したのは五十九戸と少なかった。その理由の一つについて、同市は「十勝沖地震以降、地震がたびたびあり、古い木造が建て替えられてきたからではとみている。

地震に備えて約十五年前につくった冊子が急に関心を呼んでいる。ただ精密な診断は日本建築士事務所協会などと相談してやった方がよい」と話す。

耐震診断をしている東京都建築士事務所協会・業務担当理事の伊奈克弥さん(一級建築士)は「土塗り壁でも補強はできる。診断費用は五十五万円、筋かいなどを入れる補強費用は建物によって異なり、数十万円から数百万円になる」という。

一方、今年の大震災で「TIP構法」という耐震建築法が注目を集めている。昨年二月、同構法で木造三階建ての家を建てた兵庫県西宮市上ヶ原十番町の公務員、稲田俊哉さん(三宅は、

では、古い木造住宅の耐震度を知る方法はないのだろうか。東京都や静岡県が作成した「わが家の耐震診断」と題した冊子に関心を集めている。同冊子に書かれた基礎工事の中身、壁の量や配置、筋かいの有無など二十項目を自分で点検して簡易診断するというもの。静岡県建築課は「東海

同構法を考えたのは東京工芸大学の西秀夫教授。壁になる下地板を斜め四五度に張り、土台と柱、梁と柱の交点を、三角形の合板でクギを打って接合する。このうち筋かい部分の合板接合部には約二センチのすき間を空けて、揺れからくる突き上げを防ぐ。実験によると、同構法だと木造住宅の耐震性を通常より二・六九倍に高められるという。

稲田さんは「三宅は、耐震度を知る方法はないのだろうか。東京都や静岡県が作成した「わが家の耐震診断」と題した冊子に関心を集めている。同冊子に書かれた基礎工事の中身、壁の量や配置、筋かいの有無など二十項目を自分で点検して簡易診断するというもの。静岡県建築課は「東海

同構法を考えたのは東京工芸大学の西秀夫教授。壁になる下地板を斜め四五度に張り、土台と柱、梁と柱の交点を、三角形の合板でクギを打って接合する。このうち筋かい部分の合板接合部には約二センチのすき間を空けて、揺れからくる突き上げを防ぐ。実験によると、同構法だと木造住宅の耐震性を通常より二・六九倍に高められるという。

同構法を考えたのは東京工芸大学の西秀夫教授。壁になる下地板を斜め四五度に張り、土台と柱、梁と柱の交点を、三角形の合板でクギを打って接合する。このうち筋かい部分の合板接合部には約二センチのすき間を空けて、揺れからくる突き上げを防ぐ。実験によると、同構法だと木造住宅の耐震性を通常より二・六九倍に高められるという。

同構法を考えたのは東京工芸大学の西秀夫教授。壁になる下地板を斜め四五度に張り、土台と柱、梁と柱の交点を、三角形の合板でクギを打って接合する。このうち筋かい部分の合板接合部には約二センチのすき間を空けて、揺れからくる突き上げを防ぐ。実験によると、同構法だと木造住宅の耐震性を通常より二・六九倍に高められるという。

同構法を考えたのは東京工芸大学の西秀夫教授。壁になる下地板を斜め四五度に張り、土台と柱、梁と柱の交点を、三角形の合板でクギを打って接合する。このうち筋かい部分の合板接合部には約二センチのすき間を空けて、揺れからくる突き上げを防ぐ。実験によると、同構法だと木造住宅の耐震性を通常より二・六九倍に高められるという。